

— 創世記1章・1、26-31・出エジプト14・イザヤ55章・ローマ6・3-1、ルカ24章・1-12—  
あなたがたは知らないのですか。キリスト・イエスに結ばれるために洗礼を受けたわたしたちが皆、またその死にあずかるために洗礼を受けたことを。わたしたちは洗礼によってキリストと共に葬られ、その死にあずかるものとなりました。それは、キリストが御父の栄光によって死者の中から復活させられたように、わたしたちも新しい命に生きるためなのです。もし、わたしたちがキリストと一体になってその死の姿にあやかるならば、その復活の姿にもあやかれるでしょう。わたしたちの古い自分がキリストと共に十字架につけられたのは、罪に支配された体が滅ぼされ、もはや罪の奴隷にならないためであると知っています。死んだ者は、罪から解放されています。わたしたちは、キリストと共に死んだのなら、キリストと共に生きることにもなると信じます。

—使徒パウロのローマの教会への手紙6章—

## —新しい命への道—

## 復活の時代

主キリストの復活は、死んで終わるこの世限りの神不在の空しい生き方から、神とつながって、永遠の救いに至る、新しい命に生きる道を人類に教えています。この道は、もはや、かつての支配者エジプトからの解放ではなく、現在、サタンの支配下にある「罪の死」からの解放です。罪がはびこる世界で、正しくまじめに生きようとする者には必ず、迫害があるもの。この迫害に抗うことなく主イエスは、黙して、敗北に見える十字架に上ったのです。

十字架は、拘束された肉の体（自我）を捨て、自由な心で神に向かう道であり、滅びに向かうのではなく、勝利に向かう『救いの道』であることが示されたのです。かつて、自分の家族・共同体以外はすべて敵で、敵を滅ぼす戦争が生き延びるための必須条件だった旧約時代を、幼い人類に対する神の養育時代と見るなら、養育時代を終えた人類に、成熟した大人の生き方をもたらすために来られたイエスの新約時代は、肉ではなく、心で生きる「復活の時代」と言えるでしょう。

*ある科学者の言葉。「すべての命は、壁にぶつかったら発酵しなさい。これまでの生き方を捨てて新しい命で生きるために」(大豆が納豆に。魚がナンブラーに)と。*

新しい命で生きる「洗礼」は、まさに、今までの生き方に死んで、復活の時代を生き始める出発点です。体で富と豊かさに慣れ親しんで欲望の虜になり、家族、共同体、国益以外は戦争によって滅ぼすべき敵とみなした養育時代から脱皮して、心で生き、主義主張の違いを越えて**共生**、**共有**を目指す真のキリスト者になる出発点です。

キリストの復活によって新しい世界を知り、洗礼の恵みをいただいた私たちは、それゆえ、この世の敵は、これからは、人ではなく、背後でその人をコントロールしている悪霊であることを肝に銘じなければなりません。人が人に殺される事態は決してあってはならないのです。勝利すべき敵は人ではなく悪霊であって、悪霊と戦う唯一の武器は、洗礼の時、水をくぐり抜けて決心した生き方。すなわち「自我に死んで復活の人になる」生き方以外のものではないのです。

刑罰で最も重い死刑は、人にとって最も大切な「命」を奪い、二番目に重い終身刑は「自由」を奪います。この「命」と「自由」が人生を幸せに生きる基盤に必要なものとして、キリスト教の聖書全体に流れるテーマなのです。誰にも踊らされず、誰をも脅さず、支配されず、支配せず、世界と自分を自分の目で見つめて、自ら選んだ生き方に責任を取る謙虚さがあることです。

世界が救われる最大の福音である主キリストの復活の恵みのこの時、真の知恵と識別の霊が働き、世界の為政者に回心と、悲しみの中にある人々に平和が訪れますよう切に祈りましょう。

2022年4月17日 主任司祭 昌川 信雄